

2019 年 FISA World Rowing Masters Regatta 審判参加 レポート

FISA 審判員（1628、京都ボート協会所属）塚田 秀樹

はじめに

2019 年 9 月 11 日（水）より 15 日（日）の会期で標記大会がハンガリー、ブタペスト、Lake Velence にて行われました。ITO（国際審判員）メンバーとして参加しましたので以下に報告いたします。

審判構成

ITO メンバー（国際審判）

審判長は Eva SZANTO さん、副審判長に Judit MESZAROS さん（ともにハンガリー）です。

その他 24 名合計 26 名の審判団です。氏名は割愛いたします、国籍は ARG,AUS,AUT 2 名,BEL,BRA,CAN,DEN,EGY,ESP,FIN,FRA,GBR,BGER,HKG,ITA,JPN,KOR,MEX,NED,NZL, PER, SUI, USA

NTO メンバー（国内審判）

47 名、氏名は割愛します、国籍は AUS,AUT2 名,CRO6 名,DEN,FRA2 名,GBR3 名,HUN22 名,ISR,ITA,KOR,NED,RSA,SRB,SUI2 名,TUR,USA

以上の ITO24 名と NTO47 名が 2 交代で審判業務にあたります。

初日の部署配置表には各部署が交代する場所が書かれています。

審判長の Eva (HUN) さん、NTO の Phillip(AUS)さん、Kirsten(USA)さん、Nicolas(FRA)さんは 2019 世界ジュニア選手権（東京）へ大会役員として参加しておりました。

また今大会の ITO,NTO より 5 名の方々が 2020 東京オリンピックの ITO メンバーに選ばれております。東京オリンピックでお会いするのが楽しみです。

報告事項

初日 11 日(水)8:30 に審判員ミーティングが行われました。各審判員にはこのミーティングに間に合うように招集されます。そこでマスターズコミッションと審判長から大会運営と審判業務に関する注意点の説明があります。ITO には各審判部署での具体的な業務内容や会場図などが書かれた冊子が配られます。

11 日午後からレースが始まります。

前半が 12:00 より 14:47 まで、後半が 14:57～17:25 までです。

レース番号は 4 桁で、初日は 1001 から始まり 1104 で終わります、千の位がレースの日になり最終日は 5 日目となるので 5001 から始まります。

初日私の担当は後半の Victory Pontoon（表彰桟橋）です。ここでの業務は Responsible at the Finish から無線で 1 位になったクルーのバウナンバー（A～Z のアルファベットと 1～8 のレーン番号で構成されます）を聞き表彰桟橋に着いたクルーの ID チェックをします。

手元のスタートリストと選手が持っている ID カード（ほとんどがパスポートコピー）の照合をします。私が確認 OK の合図を担当役員に送り、メダルを授与します。

渡されるスタートリストは Judge at the Start（線審）などと異なります。まず縦にクルー名が並べられ、記載される情報に国籍3レターとクルー名、選手名、この選手名の後に(1954)のように生まれた年が記載されます。そして見逃してはいけないのがこの(1954)のあとに何もなければ全クルーが同一年齢カテゴリーです、もしこの後に G とか H などの記載があればそれは違う年齢カテゴリーと一緒にレースをしているので 1 着が複数あります。例えば H カテゴリーのクルーが 1 クルーであればフィニッシュすれば 1 位確定なので Finish から G カテゴリーの中の 1 位しか知らされなかったとしたら、それは Res. Finish が気付いていないので、G の 1 位と H の 1 位を ID チェックしなくてははいけません。

すべてのレースごとに表彰があり、該当クルーを伝える無線が頻繁にするので、当初全ボジション共通で使っていたチャンネルを表彰桟橋と Res. Finish 間だけ別チャンネルを使いホットラインとして業務にあたりました。



Victory 桟橋です。(右)桟橋の上の方に左右に伸びている半島に IN & OUT 桟橋があります。(左)救急テントがあります。



メダルを渡します

2日目 12日(木)

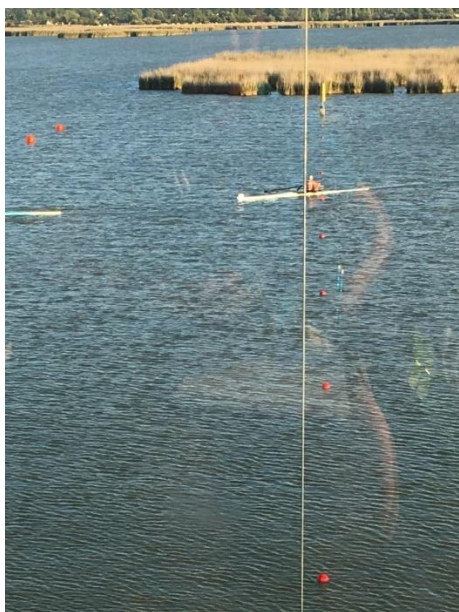
午前は(前半) 900m Umpire です。

FISA Masters Regatta では、主審はレースを追わず定点(100m,500m,900m の3点)でコース外からレースを見守ります。もし、明らかにレーンを外れているというときには該当レーンまで行き、白旗を掲げ国名をコールします。900m地点では艇差もついておりコース内に進入してコールすることはまずありません。全クルーの漕了を知らせる白旗を Finish Judge に掲げます。

午後は(後半) Finish Judge です。

今大会は Responsible at the Finish も Finish Judge ,NTO とともに決勝線を目視します。多くの場合 Res. Finish は決勝線上のポジションとは別の場所にあるカメラモニターを見ます。今大会ではカメラモニターは記録員だけが確認しており、Res. Finish は必要に応じて記録員に微妙な着順の確認をします。

私 Finish Judge は決勝線通過順位を言いブザーを押します。最期のクルーが漕了した後は NTO が白旗を掲げ、私が着順を読み上げます。Res. Finish は無線で1着のクルーを表彰栈橋に知らせます。



決勝線です



表彰栈橋から帰艇栈橋へ戻るクルーです

3日目 13日(金)

午前は(後半) Judge at the Start です。

初日のミーティングでの説明で、今大会はステッキボートの前後移動は種目によって大きく動かさない、発艇線を動かし、ボートホルダーが前後に動かすのはわずかな調整だけとするとのことでした。

よって、種目が1×から4×や8+などへ変わる時は NTO がスリットを動かし ITO も必要な台(大きな樹脂製のブロックのようなもの)を動かします。しかし、ITO によって線審業務をするスタイルはそれぞれで、NTO の前で椅子に座りスリットを見て指示をだす方もいました。

私は前の ITO がしていたスタイル(スリットを見る NTO の後ろにブロックを置いてそこに立って NTO の後ろから発艇線を見る)で業務にあたりました。

業務は艇首(バウボール)が揃ったところで2色信号(白赤)にワイヤーで繋がっているボタン(白と赤があります)を押して、白ランプをつけます。この信号をスターターが確認したらロールコールを始めます。

なお、False start がありました。この時は赤ランプを直ぐに押します。無線でスターターに該当クルーを伝えて、再レースとなります。合わせて該当レーンのボートホルダーに黄色のボール(イエローカードの意味)を上げさせます。



エイトの発艇です。手前にある3こぶの台(ブロック)がアライナーの頭の上からスリットが見えるように乗るものです。この時の ITO はこれを使っておりません、スリットは写真の左枠外に移動させております。



座っている方が ITO 右の青ポロシャツの方が NTO(アライナー)です。ITO は指でレーン番号を伝えています。



私がやったスタイルです、ITO が
台に乗って、前の NTO に必要に応
じて指示を出しました。



艇台（スターター）と見にく
いですがプレスターターです。

午後は（後半）Control Commission Rental Pontoon & Hot seat Pontoon です。



OUT going pontoon です。この一番右が
RENTAL 艇の OUT going pontoon です、
クルーの ID チェックが主な業務です。

Hot seat pontoon はダブルエントリーク
ルーが半島を回り込まずにすぐに上がり、
OUT pontoon へ移動できるように設け
られた栈橋ですが、使用するクルーはあり
ませんでした。

4日目 14日(土)

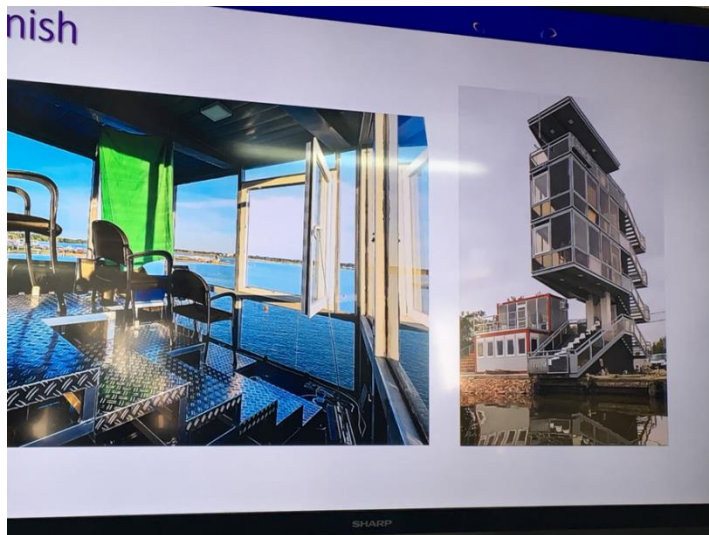
午前(後半) 100m Umpire です。

100m地点ですのでまだ艇差がなく、レーン侵害も起こりやすいです。スターターがクルー一名(国名)を呼びますが、私もクルーが通過した後すぐコース内へ進入してもらい、白旗をあげハンドマイクで当該クルーの国名を呼びます。

とくに舵手なしのフォアでレーンを外れるクルーが多かったです。

午後は(後半) Finish Judge です。

今大会2回目の部署です。



Finish Tower と判定員席です。一番前に Res. Finish、2 番目に Finish Judge、一番上に NTO が座るパターンが多かったです。

5日目(最終日) 15日(日)

前半 Responsible at the Finish 担当です。この日のレースは男女が混ざって乗る MIX クルーのレースです。違うカテゴリーの混在レースも多いので、複数のクルーを表彰桟橋に伝えるときはしっかり意識しました。

会場の様子



各チームがテントを張ります。



Velence 湖の地図です。右上の方にコースがあります。その対岸（地図の下側中央付近）に ITO が泊まったホテルがあり、鉄道も地図上の湖の下を通っています。



バウナンバーの配布はスタート1時間前からです。



コントロールコミッションです。



開会式です。レース初日
(11日)の夕方、レース会
場にて行なわれました。



シャワールームやマ
ッサージサービスな
どもあります。





全参加国、参加選手数を記した T シャツです。
52 か国、3 2 4 1 名の選手数です。

日本からは 160 名、種目ではエイトが多かったです。ダブルスカルでは優勝したカテゴリーもありました。

最後に

今大会は天候に恵まれ、雨は会期中降らず、コースのコンディションもよくスムーズに大会が行われました。

細かいところでは false start の後の再スタート時にイエローカード（ボール）を上げなかった、ロールコールの時棄権クルーを呼んだなどいくつかありましたが参加クルーが大変有意義に過ごしている様子が印象的でした。

1 点レスキュー体制で考えさせられる点がありました。シングルスカルのレースで 950m（フィニッシュ直前）で沈が発生しました。すぐにレスキュー隊が駆けつけるのですが、救助中に次のレース（3 分間隔ですので沈発生時にはスタートしています。）が近づいています。結局レーン上にレスキューボートがいたためこのクルーは進路をふさがれ止まってしまいました。その間にあとから来たクルーが越して先にフィニッシュしました。

この対応から学ぶべきこととして、今後の日本国内での国際大会でもレスキューを専門の団体に依頼することがあると思います。今大会でもレスキューは専門の団体でした。レースの状況を見てモーターボートを動かしながらコース・レーンから離れてモーターボートに乗せるなどの判断をしてもらうよう、レクチャーしておくか、レース運営に熟知したボート関係者が指示を出せる体制をとっておかないといけないと思いました。専門家なのだから任せようではないかと思いました。

結果として再レースはせず、この進路をふさがれたクルーに順位をつけメダルを授与することで解決しました。

今大会の参加にあたり、日本ボート協会の皆様のご支援を賜りましたこと御礼申し上げます。2021 年には私の地元琵琶湖漕艇場でワールドマスターズ大会が行われます。今回の経験を生かして運営をお手伝いできればと思います。ありがとうございました。以上